

# 第1 群馬県の現状

## 1 高齢化の現状

### (1) 高齢者人口と高齢化率

平成29年群馬県年齢別人口調査によると、10月1日現在の群馬県の総人口は約196万人であり、そのうち65歳以上の高齢者（以下、高齢者）は約56万人、総人口に占める割合は過去最高の28.9%であり、県民の4人に1人以上となりました。

県の総人口は平成16年をピークに減少していますが、近年の傾向を年齢3区分別にみると、0～14歳人口と15～64歳人口が減少し続ける一方で、高齢者人口は年々増加し、また、15～64歳の生産年齢人口に対する高齢者人口の比率（老年人口指数）は49.2%となっています。これは、生産年齢にある者の2.0人で1人の高齢者を支えているということになり、昭和35（1960）年当時の5分の1にまで低下しています。この傾向は今後も続くことが予想されており、現役世代の負担がますます増加していくこととなります。

#### ◆本県の年齢3区分別人口及び割合の推移

年次	総数	0～14歳 人（%）	15～64歳（イ） 人（%）	65歳～（ロ） 人（%）	老年人口指数 （ロ）÷（イ）%
昭和25	1,601,380	589,584(36.8)	934,110(58.3)	77,528(4.8)	8.3
35	1,578,476	500,151(31.7)	981,555(62.2)	96,770(6.1)	9.9
45	1,658,909	97,032(23.9)	1,131,078(68.2)	130,799(7.9)	11.6
55	1,848,562	441,548(23.9)	1,222,826(66.2)	184,115(10.0)	15.1
平成2	1,966,265	368,080(18.7)	1,340,557(68.2)	256,367(13.0)	19.1
12	2,024,852	306,895(15.2)	1,346,441(66.6)	367,117(18.2)	27.3
22	2,008,068	275,225(13.8)	1,251,608(62.7)	470,520(23.6)	38.6
23	2,000,871	271,513(13.6)	1,242,448(62.4)	476,195(23.9)	38.3
24	1,992,556	266,546(13.4)	1,222,139(61.7)	493,156(24.9)	40.4
25	1,983,033	261,923(13.3)	1,200,717(60.9)	509,678(25.8)	42.2
26	1,975,105	257,646(13.1)	1,180,407(60.1)	526,337(26.8)	44.6
27	1,973,115	250,884(12.8)	1,165,780(59.6)	540,026(27.6)	46.3
28	1,966,587	246,226(12.6)	1,151,838(59.1)	552,098(28.3)	47.9
29	1,958,615	240,959(12.4)	1,139,895(58.7)	561,336(28.9)	49.2

出典：国勢調査結果（各年10月1日現在）

ただし、平成23～26、28～29年度は群馬県年齢別人口調査（各年10月1日現在）

## (2) 将来人口推計

群馬県の人口は、平成16年(2004年)をピークに減少しています。一方で、高齢者人口は増加を続け、平成37年(2025年)には総人口の31.3%になると推計されています。

平成24年から平成26年にかけて団塊の世代が高齢期を迎えた後も、高齢者人口は増加し、平成32年には3人に1人が高齢者となることが予測されています。

### ◆人口の将来推計の推移

		平成27年(2015)	平成32年(2020)	平成37年(2025)
全 国	総人口	127,094千人	124,100千人	122,544千人
	高齢者人口(高齢化率)	33,465(26.6%)	36,124(29.1%)	36,771(30.1%)
本 県	総人口	1,973千人	1,920千人	1,858千人
	高齢者人口(高齢化率)	540(27.6%)	578(30.1%)	582(31.3%)

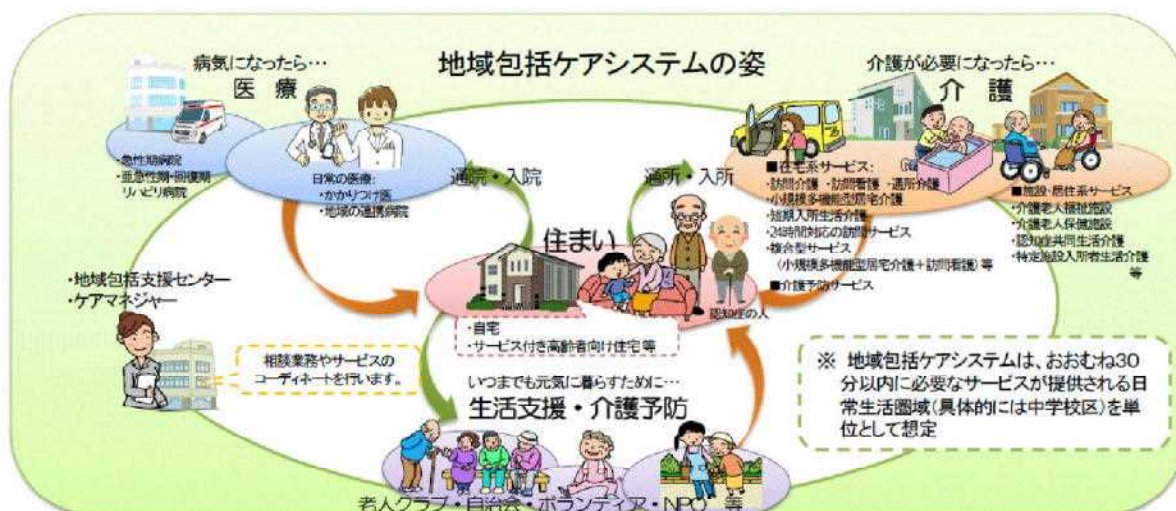
資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成29年4月推計)  
及び「日本の地域別将来推計人口」(平成25年3月推計)  
※平成27年数値は実績値(国勢調査結果(27年10月1日現在))

## (3) 地域包括ケアシステムの深化・推進

超高齢社会\*が進展する中で、団塊の世代が75歳以上となる平成37年(2025年)には、医療と介護のリスクが急増する75歳以上人口が急増し、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。

そのため、要介護高齢者等が可能な限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援の5つのサービスを切れ目無く提供する地域包括ケアシステムを各地域に構築するとともに、深化・推進していくことが必要となっています。

※一般的に、高齢化率7~14%は「高齢化社会」、14~21%は「高齢社会」、21%~は「超高齢社会」と分類されています。



## 2 元気高齢者の増加

### (1) 平均余命

65歳以上を「高齢者」とする定義は昭和31年（1956年）ころ、国際連合が統計調査で使用したことから世界に広く定着したと言われています。

しかし、今日までに高齢者の平均余命は大幅に伸び、元気な高齢者も増加しているため、その当時の高齢者と現在の高齢者を単純に比較することはできません。

厚生労働省が作成した平成28年簡易生命表によると、全国の男性の平均寿命は80.98年、女性の平均寿命は87.14年で、群馬県の場合も全国平均とほぼ同じ数値で推移しています。昭和45年と比較すると平均寿命は約12年伸びています。また、平均余命を比較すると、現在の65歳の平均余命は、昭和30年当時の55歳の平均余命を上回っています。75歳は65歳、85歳は75歳と同じ水準になっており、現在の高齢者は昭和30年の同年齢の高齢者と比べて10歳も若いということになります。

また、平均寿命が延びた分、高齢者が老後を過ごす期間が長くなったということであり、高齢期における健康や生きがいづくりがますます重要になっています。

## ◆平均寿命・余命の推移

	全 国				群 馬 県			
	男 性		女 性		男 性		女 性	
	0歳	65歳	0歳	65歳	0歳	65歳	0歳	65歳
昭和35年(1960年)	65.32	11.62	70.19	14.10	65.32	11.62	70.19	14.10
昭和45年(1970年)	69.31	12.50	74.66	15.34	69.22	12.57	74.50	15.32
昭和55年(1980年)	75.35	14.56	78.76	17.68	73.72	14.74	78.46	17.41
平成2年(1990年)	75.92	16.22	81.90	20.03	76.36	16.43	81.90	20.05
平成12年(2000年)	77.72	17.54	84.60	22.42	77.86	17.63	84.47	22.28
平成22年(2010年)	79.55	18.74	86.30	23.80	79.40	18.77	85.91	23.47
平成23年(2011年)	79.44	18.69	85.90	23.66	79.69	18.66	86.16	23.75
平成24年(2012年)	79.94	18.89	86.41	23.82	79.72	18.84	86.39	23.80
平成25年(2013年)	80.21	19.08	86.61	23.97	79.85	18.85	86.37	23.79
平成26年(2014年)	80.50	19.29	86.83	24.18	80.18	18.96	86.73	23.91
平成27年(2015年)	80.75	19.41	86.99	24.24	80.61	19.31	86.84	24.08
平成28年(2016年)	80.98	19.55	87.14	24.38	—	—	—	—

資料：全 国：厚生労働省「簡易生命表」及び「完全生命表」  
 群馬県：厚生労働省「都道府県別生命表」  
 ただし平成23～26年度は「群馬県簡易生命表」

## ◆平均余命の比較（全国）

1955年(昭和30年)	2016年(平成28年)
75歳(男 6.97、女 8.28)	85歳(男 6.27、女 8.39)
65歳(男 11.82、女 14.13)	75歳(男 12.14、女 15.76)
55歳(男 18.54、女 21.61)	65歳(男 19.55、女 24.38)

資料：1955年：厚生大臣官房統計調査部「第10回生命表」  
 2016年：厚生労働省「簡易生命表」

## (2) 高齢者像

## ①高齢者の健康

平均余命の伸びに伴い、高齢者の意識や生活の実態は以前と大きく異なってきました。本県の高齢者人口は年々増加していますが、そのうちの多くは、介護などを必要とせず、様々な場面で活躍が期待できる人たちです。

平成28年度の県の第1号(65歳以上)被保険者約56万人のうち、要支援・要介護認定を受けている高齢者は約9万4千人でしたが、これは全体の17.0%であり、残りの8割以上の方は介護を必要としていません。

65歳以上を対象とした全国調査でも、日常生活に影響があると回答した人の割合は男女ともに25%前後であり、高齢者の多くは日常生活を問題なく送っており、健康であるといえます。

◆高齢者数に占める要介護・要支援認定者の推移（群馬県）

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
第1号(65歳以上)被保険者数	481,691	500,373	516,061	532,135	545,676	555,000
要介護・要支援認定者	79,746	84,443	87,820	91,645	92,732	94,136
65歳以上高齢者に占める割合	16.6%	16.9%	17.0%	17.2%	17.0%	17.0%

資料：群馬県介護高齢課「介護保険事業状況報告（年報）（平成28年は暫定値）」

◆高齢者の健康状態（全国）

性別	日常生活に影響のある者の割合（注1）	影響の内容（注2）				
		日常生活	外出	家事・仕事	運動	その他
男	23.9%	10.4%	9.5%	6.9%	9.0%	3.6%
女	27.7%	12.9%	13.6%	11.7%	8.3%	3.2%

注1：全国の高齢者（65歳以上）の中で日常生活に影響のある者の割合

注2：全国の高齢者に占める割合。複数回答

資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成28年度）。ただし、百分率に換算

②高齢者世帯の所得（全国）

高齢者世帯\*の年間所得は、一世帯当たりで見ると全世帯の平均を大きく下回っていますが、世帯人員一人当たりで見ると、世帯主が65歳以上の世帯の平均と全世帯の平均とはほとんど変わりありません。

また、生活意識については、48%の世帯が「大変ゆとりがある」から「普通」と回答しており、全世帯での割合を上回っています。

\*65歳以上の者のみで構成するか、またはこれに18歳未満の未婚の者が加わった世帯。

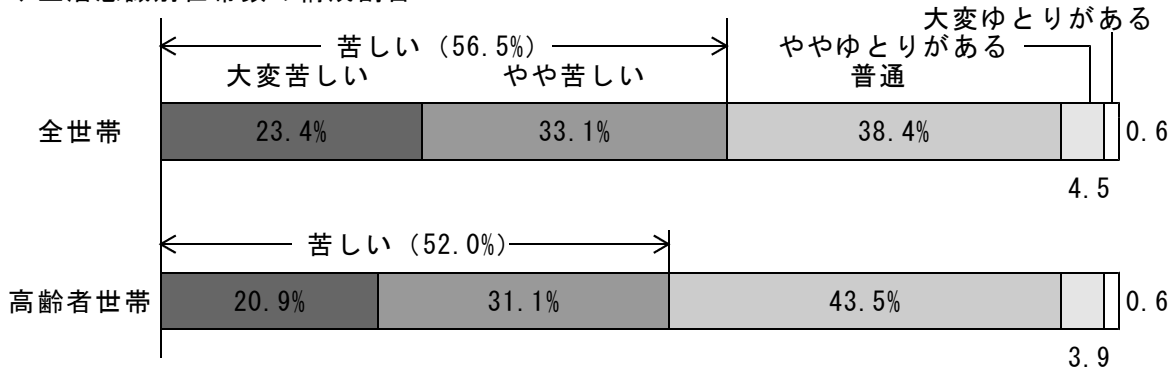
◆高齢者の平均所得金額

区分	一世帯当たり
高齢者世帯	308.4万円
全世帯	545.8万円

区分	世帯人員一人当たり
世帯主が65歳以上	197.3万円
全世帯	212.4万円

資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成28年度）

◆生活意識別世帯数の構成割合



### 3 今後の課題

本県の生産年齢人口割合は平成4年以降毎年低下し、平成27年には60%を下回りました。この傾向が続くと、現役世代の負担は年々増加していき多くの現役世代で少数の高齢者を支えることを前提とした現行の制度が維持できなくなり、社会全体の活力が失われてしまうことにもなります。

このような状況にあって、特に、団塊の世代をはじめとした高齢者は豊富な知識・経験・技能などを有しており、退職後もなお社会を支える有力な人材として、引き続き活躍することが期待されます。

また、地域包括ケアシステムにおける介護予防や生活支援において、元気な高齢者自らが健康維持を心がけること（自助）や、支援が必要な地域の高齢者を支援（互助）することも必要となっています。

社会の変化に伴いさまざまな問題が浮上してくる中、高齢者の8割を占める元気高齢者ができるだけ長く健康を維持し、これまでに培った知識や経験を活かして地域社会において活躍できる環境をつくるのが、今後の社会を明るく活気あるものとするための重要な課題です。